

がら、彼らも肉を食べていることだ』と。食肉業に対する偏見を初めて感じた瞬間でした」

息子の存在が自分の仕事に向き合うきっかけに

大阪での修行後、坂本さんは故郷である熊本市の大手食肉小売店に就職し、現在の奥さんと出会い、子どもも授かります。そして、子どもと一緒に過ごせる時間を大事にしたいと、子どもが小学校に入ると食肉解体業に転職します。

仕事への誇りや動物の死の意味を見いだせない日々を過ごす坂本さんに、その後の人生観を変える出来事が起こります。

一つ目が、小学生の息子しのぶくんの存在です。

食肉解体業への偏見などから、しのぶくんに自分の仕事について説明していな



「いのちをいただく〜みいちゃんがお肉になる日〜」
企画・原案/坂本義喜 著/内田美智子

「何かを変えようと、心の変化が起こったとき、必ず出会いがあるものです」。その日、食肉センターにやってきたのは、一人の女の子と一頭の雌牛「みいちゃん」でした。

食肉センターにやってくる牛や豚たちは何かを感じ取り、おびえたり抵抗する姿をみせます。

かった坂本さんは、ある日授業参観に出かけます。その日のテーマは「親の仕事について」。先生に「お父さんの仕事は何ですか」と聞かれたしのぶくんは、「普通の肉屋さんです」と答えてしまいます。

その後、先生は「お父さんが仕事をしないと、みんな肉を食べることができません。その日から、しのぶくんは「お父さんの仕事はすごいんだ！」と父親をニコニコした顔で見つめ、その事について向き合うきっかけをつくります。

そんな姿を日々目の当たりにしている坂本さんにとって動物たちは怖くて仕方なかったそうです。

そんな坂本さんにとって、女の子がみいちゃんの手をさす姿は衝撃的だったそうです。その様子を見て坂本さんは、初めて動物と向き合う決心をします。

みいちゃんが「解体」される当日の朝、意を決してみいちゃんの身体をさわります。そして、始業のベルが鳴り、別れを告げた坂本さんにみいちゃんが流した大粒の涙――。

「この時、牛も人間も何ら変わらないことに気付いたんです」。これまでは、きれいに皮をはいで肉に傷を付けないことが最高の仕事だと考えていた坂本さん。「技術じゃない。肉になる動物たちへの感謝の気持ちと、いかに怖がらせないようにならなければならない」と心の变化を振り返りました。そして、「一つの命には必ず運命があります。その動物たちの思いや、命が肉に変わる瞬間」を多くの人に知ってほしい。その後は皆さんで考えてく

2 theme “小中学校、高校、保育所の取り組み”

【根雨小学校】

根雨小学校とPTAが行なった取り組みをいくつか紹介します。

●児童が主体的に取り組む活動

今年度は、これまで以上に児童会を中心に児童が主体的に取り組む活動を行っています。まず、児童集会を月に1〜2回程度、全校児童が体育館に集まって行っています。内容は、縦

「この時、牛も人間も何ら変わらないことに気付いたんです」。これまでは、きれいに皮をはいで肉に傷を付けないことが最高の仕事だと考えていた坂本さん。「技術じゃない。肉になる動物たちへの感謝の気持ちと、いかに怖がらせないようにならなければならない」と心の变化を振り返りました。そして、「一つの命には必ず運命があります。その動物たちの思いや、命が肉に変わる瞬間」を多くの人に知ってほしい。その後は皆さんで考えてく

「仕事には必ず意味がある。その意味を知ることが人を思いやることができず。人にやさしくなれたら人権や差別なんて考えなくてよくなる」と私は思っています。どうか、命にやさしく、人にやさしく。困っている人がいたら助けてあげられる人になつてほしい」

「命が肉に変わる瞬間」を多くの人に知ってほしい。その後は皆さんで考えてく

「命が肉に変わる瞬間」を多くの人に知ってほしい。その後は皆さんで考えてく

割り班活動や合唱、連絡や表彰などを行っています。教師側が行うのではなく代表委員会が中心となり企画や運営を行います。そのことで、自主性や仲間意識が育ってきているようです。

●合同人権学習会

解放文化祭が行われた翌日の10月22日、下榎集会所に根雨小学校と黒坂小学校の6年生が集まって合同の人権学習会を行いました。



▲学習会に参加した6年生

今年度は、地区学習会などについて話し合いました。



▲根雨小と黒坂小の6年生が交流学习

た。「毎週、友だちが火曜日に学習会に行っているけれど、目的やどんなことをしているのか」など身近な疑問を出し合いました。隣保館の職員の皆さんにも参加してもらい、理解を深めることができました。

これまでは、さまざまな人権問題について取り上げてきましたが、今年度は地区学習会について話し合うことで、中学校へ進んでもみんなで助け合って学んでいくことの大切さを確認することができました。

●PTA同和教育推進部

毎年人権教育参観日を2月に行っています。昨年度は上学年、下学年に分かれ親子学習会を行いました。子どもたちを取り巻くメディアとのつきあいや、携帯電話やスマートフォンを通して実際に起こっている問題について学習しました。親子でルールを決めていこうなど、多くの声が寄せられました。

【黒坂小学校】

いろいろな人との出会いを通して、さまざまな人権問題や生き方について考える取り組みを行っています。

●交流学习

「手話教室」では、手話ボランティアの皆さんに来てもらい、全校児童が手話について学習しました。

「手話は手振りだけでなく、表情で表すことが大事」と教わったほか、「いつだって」という曲の歌詞に手話を付けてもらい、学習発表



▲手話について理解を深める機会に

会で発表することもできました。

また、6年生は根雨小学校の6年生と解放文化祭に合わせて交流学习をしました。

展示物見学や人権センター所長の中田さんの話しを聞き、解放文化祭の目的や、集会所で行われている地区学習会の内容、ねらいなどについて学ぶことができました。

●人権教育参観日

人権教育参観日では、全校級が道徳の授業を公開し、日ごろの人権教育の様子を保護者の皆さんに見てもらいました。その後、学級懇談の中で、仲間づくりなど学級の様子や家庭での暮らしについて話し合いました。

●学力の向上

一人一人の児童が主体的に学習に取り組むことで確かな学力を身に付けられるよう、授業改善と家庭学習の充実を図っています。特に授業では自分の考えを自分の言葉で表現できる子ども、友だちとの関わり合いを通して考えを深めていく集団づくりを目指しています。

【日野中学校】

●人権弁論大会

毎年、10月中旬に学級ごとで弁論発表を行っています。今年は24日に、日ごろ生徒たちが感じていることや、弁論作成にあたって自分に向き合って考えたことなどをテーマに、各学級で発表をしました。一人一人の発表後、それによつてどのように感じたか、どのような思いを持ったかなどを出し合い、人権についての考えを深めました。

人権弁論の取り組みは、生徒自身が人権について考えるだけでなく、学級での人間関係を深めることができるよい機会になっています。

なお、本校文化祭では、学級の代表に選ばれた生徒が発表を行っています。さらに日野郡中学校総合文化祭でも代表の生徒が発表を行いました。

●文化祭での学級人権劇

毎年、学年ごとに脚本を選び、人権をテーマにした演劇を行っています。友だちや家族のきずなをテーマにしたものや、いじめなど周りとのかかわり方を考えるものがよく選ばれています。

今年度は、2年生が学級の問題をテーマにした劇を、3年生は過去のトラウマを克服し、自分らしく今を生きることをテーマにした劇を行いました。

●人権教育参観日

今年度は1月19日の午前に行う予定です。二限と三限を使って、昨年の人権・同和教育研究集会で講演された竹内昌彦さんを招きます。その後、学級ごとに感想を書き、まとめをする予定です。

●そのほかの講演会

今年度は11月17日の土曜授業で手話講座を行いました。手話普及支援員を招き、手話で自己紹介をしたり、難聴の疑似体験をしたりしました。

また、12月3日には五限と六限を使って、移植医療をテーマに命を考える授業を行いました。鳥取大学医学部から移植コーディネーターを招き、移植医療の現状や、今後の課題などについて話を聞きました。

どちらの講演会でも、問題を他人事のように考え